

とよなか

(部内資料)

教え子を再び戦場に送るな！ 2018年9月24日発行NO. 594

子ども達の豊か
な成長・発達の
ために皆で力を
合わせましょう！

教育委員会がまずやるべき役割 それは必要な教職員の配置 採用の大幅増を

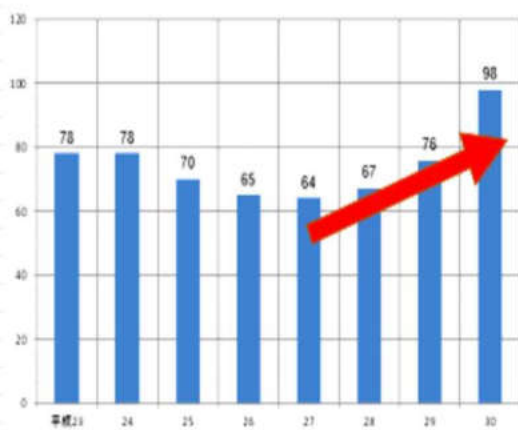
豊能地区独自採用後 採用数激減！ 近隣同規模市の採用数 6割

	人口(人)	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	2016年度 平成28年度	2017年度 平成29年度	2018年度 平成30年度	4年間
豊中市	40万	94	118	84	62	56	50	72	240
高槻市	36万	99	109	107	100	104	93	81	378
吹田市	36万	100	101	98	80	99	103	83	365
枚方市	41万	97	97	120	117	99	95	83	394

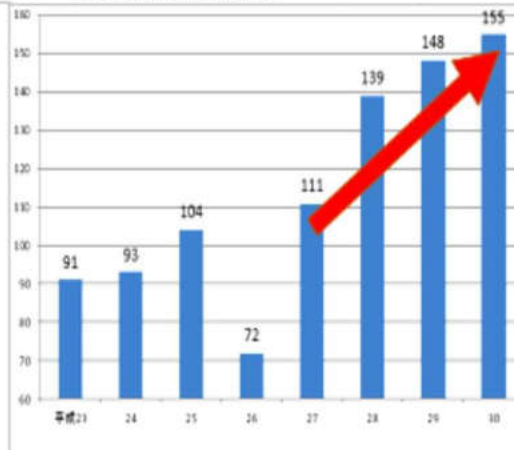
豊能地区独自採用

うなぎのぼりに増える
産休の代わりの先生が来ない！
臨時教職員

中学校定数内講師(欠員補充)



小学校定数内講師(欠員補充)



市教委は「計画的に採用」？

2022年に豊中市は庄内地域の小学校6校・中学校3校を統廃合しようとしています。それに伴って教職員数は当該9校で3割(約60〜70名)の削減になると市教委はいつています。「採用を増やせ」の声に対し毎年「計画的に採用していく」と答える市。同規模自治体と比較しても明らかに豊中では採用を抑制しています。

一方、講師人数は急増。以前なら秋以降に講師不足が言われたのが、1学期スタートから不足の事態が近年続いています。妊娠したのにその代わりの先生が決まらずに、安心して産休に入れない！こんな事態が生まれています。

統廃合までさらに4年間は、講師不足で我慢せよというのでしょうか。現場には毎年、教員採用選考を受ける講師の方々がたくさんいます。教員採用の大幅増を求めます。

沖縄の未来は 日本の未来の問題

沖縄知事選挙

9月30日投票で沖縄知事選挙が行われます。翁長知事が急逝して急遽行われることになった選挙です。

沖繩に観光などで行かれた方も多いと思いますが、沖繩が抱える基地の問題は深刻です。飛行機で沖繩に

近づくとも海上近くの低空を飛びます。これも空域が米軍優先になっており、上空が米軍。大気不安定な低空が民間機となっているからです。

今度の沖繩知事選挙はジュゴンも住む自然豊かな辺野

古に米軍の新基地を建設させるかどうか、これが大きな争点となっています。

翁長知事の遺志を継ぎ辺野古新基地ストップを公約に掲げる「オール沖縄」の玉城デニー候補と自民公明

維新の推す佐喜真候補。佐喜真候補は辺野古基地問題については全く語ろうとしません。

政権あげて知事選 自民党本部が主導

故翁長知事の妻が語るように「政府の権力をすべて行使して、民意を押し潰そうとする」事態が進行しています。

期日前投票の重要性を強調し、期日前投票者数のノルマを課し、毎日その投票者数を各団体から自民党本部に報告することを要求しています。

日本の未来に 関係する沖縄

今、自民党本部は各種中央団体に対して、毎日の期日前投票者数を党本部に報告するよう求めています。

本当のことを国民・県民に隠し、だまして権力の思った政策をすすめる安倍政権。今、全国でそして、大阪でも沖縄県民に連帯した集会が開かれています。

故翁長知事の妻 樹子さんの訴え 9/22 うまんちゅ集會

泣かずにしゃべれる自信がありません。翁長雄志の家内の樹子でございます。本当にたくさんの方に支えて頂いて必死に頑張ったんですけど、8月8日に急逝致しまして。ひと月半になります。正直、翁長が亡くなって、頭の中では理解しているつもりなのに、心が中々追いつきません。洗濯物を畳んでいるだとか、ご飯を出してる時に突然、『あっそうだパパ』って顔を上げちゃうんですよね。そしたら遺影の翁長がいつも笑っているの、『バカだなあ君は』って言って。翁長が恋しいです。あの笑顔がもう一度見たい。あの笑い声がもう一度、聞きたい。でも叶わないから・・・。

この選挙は正直言って翁長がいつも言っていたように、みんな同じウチナンチュだから、みんな一生懸命考えてみんなが出した結論はもうそういう事なんだという事で、私は今回、本当は静かに皆さん県民の一人ひとりの方が出す結論を待とうと思っていました。ところが、日本政府の方のなさる事が余りにも酷いから、たった140万人の(日本の)1%しかない沖縄県民に「オールジャパン」と称して、政府の権力を全て行使して、私達沖縄県民をまるで愚弄するように押し潰そうとする!! 民意を押し潰そうとする!何なんですかこれは!(みんなついてるよ!)

こんなふうに出てくるというのは正直、とても躊躇しました。でももう、何だか翁長が『もう仕方がないな、みんなで頑張らないといけないから君も一緒になって頑張っておいで』と言ってくれたような気がして、今日はこの場に立っております。

この沖縄は翁長が心の底から愛して、140万県民を本当に命懸けで守ろうとした沖縄です。県民の心に1ミリも寄り添おうとしない、為さらない相手の方に悪いけど、申し訳ないけど、私は譲りたくはありません。今デニーさんの話を聞いて、よかった、うちの人の心をデニーさんが継いでくれるんだと思ったら涙が止まりません。

残り1週間、マグマを噴出させてでも必ず勝利を勝ち取りましょう」

在日米軍、沖縄と本土との比較

